

女性の視点からの 防災対策について

山本 一恵 議員

質問 東日本大震災から1年になり、被災地では本格的な復旧・復興が急がれています。全国各地では今回の震災を踏まえ、防災対策を見直す動きが活発化してきています。そこで問題になってきているのが、今までの防災対策において、避難所で女性が着替える場所がないなど「女性の視点」が決定的に欠落している実態が明らかになりました。地域の防災対策の見直しでは、女性の視点を積極的に取り入れる必要があるのではないのでしょうか。そして、女性だけでなく、子どもや高齢者、障害者にとって何が必要かなど、きめ細かい対応にも気づくことができませぬ。そこで次の3点について、お伺いします。

- 1、防災会議への女性委員の積極的な登用
- 2、学校施設等の防災機能の強化
- 3、災害時緊急物資・備蓄品の検討

答弁（総務部長） 1点目の防災会議については、災害対策基本法の規定に基づき設置されています。定数は25人以内となっております。現在、女性委員はいませんが、今後会議への女性の登用を積極的に行っていきたいと考えております。2点目の学校施設等の防災機能の強化については、耐震化を年次計画で進めるなど、避難所としての安全性の確保、通信連絡手段の確保など地域防災計画に沿っていきの機能の充実を図っていき

ます。3点目の災害時緊急物資・備蓄品については、第一に各家庭での備蓄をお願いし、村の備蓄については、防災倉庫を役場庁舎、光と風の丘公園駐輪場に計3棟設置。備蓄品は飲料水、非常用食料、携帯トイレ、日用品、下着等。そして非常用発電機、投光機も各4機今年度購入し、当面一括集中管理する予定です。避難所として使用する各小中学校には今後、備蓄品等の検討をしていきたいと思

います。3点目の災害時緊急物資・備蓄品については、第一に各家庭での備蓄をお願いし、村の備蓄については、防災倉庫を役場庁舎、光と風の丘公園駐輪場に計3棟設置。備蓄品は飲料水、非常用食料、携帯トイレ、日用品、下着等。そして非常用発電機、投光機も各4機今年度購入し、当面一括集中管理する予定です。避難所として使用する各小中学校には今後、備蓄品等の検討をしていきたいと思

答弁（村長） 東日本大震災の時に、保健センターに避難された方々がおりましたが、男女が同じ所で避難生活をされていたという実情でした。議員ご指摘のとおり、女性の視点からでの対策が必要と思

います。今月、防災会議がありますので、早急に女性委員の登用を図りたいと思

います。避難所としての機能強化

